

口の中には約 600 種類の細菌がいるといわれており、その数は大腸の中の細菌の数とほぼ同じです。

「術前口腔ケア」を行わずに口の中が不潔な状態で全身麻酔の手術を受けると、口の中の細菌が原因で全身的な感染症を引き起こす危険性があります。



周術期口腔機能管理はこのお口の中の細菌を減らし、手術の後の肺炎や抗がん剤による副作用を減少させる効果があります。

また、「ぐらぐらしている歯」や外れそうな詰め物などを固定したり除去することで手術の際の事故や偶発症を予防します。

周術期口腔機能管理に関するお問い合わせ
対応歯科医院のお問い合わせは

一般社団法人 尼崎市歯科医師会
尼崎市病診連携協力歯科医会

TEL : 06-6481-5932

FAX : 06-6481-6488

<http://ada.or.jp/renkei.html>



かかりつけ歯科医のある方は、
かかりつけ歯科医へご相談を

ada
Amagasaki Dental Association

平成 27 年 12 月作製
一般社団法人尼崎市歯科医師会
尼崎市病診連携協力歯科医会

周術期口腔機能管理のご案内

安全で快適な手術のために



歯科医師・歯科衛生士による専門的なお口の清掃と管理「**周術期口腔管理**」は、全身麻酔での手術での偶発症や事故を減少させ、抗がん剤による治療の副作用などを軽くします。

また周術期口腔機能管理を受けることで平均入院期間が短くなる事が知られています。

肺炎の予防

全身麻酔の際、呼吸を管理するためのチューブ（挿管チューブ）を口から気管へと挿入します。口の中の細菌がチューブに付着して気管や肺に入ることにより術後、誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があります。



誤嚥性肺炎

誤嚥性肺炎は、細菌が唾液や胃液と共に肺に流れ込んで生じる肺炎です。とくに手術などで人工呼吸器を使用した後の誤嚥性肺炎を『人工呼吸器関連肺炎（VAP）』と言います。

どんなことをするの？

周術期口腔機能管理はおもに

- ・お口の中の徹底的な清掃、ケア
- ・グラグラしている歯の固定
- ・感染のある歯の抜去
- ・未治療の虫歯の応急処置
- ・合わない入れ歯の調整、修理などをおこないます。

手術までの時間に限りがある場合が多いので、手術の内容や全身状態にあわせて、優先順位をつけたうえで管理計画を策定します。

手術までに時間がないけど…

お口の中の清掃を行うだけで効果があることがわかっています。

手術の前にプロフェッショナルケアを行うと、その後1～2週間のあいだはお口の中の細菌量が減少するという結果が出ています。

保険はきくの？

周術期口腔機能管理は平成24年から保険適応になっています。

全国の病院での治療結果から入院期間の短縮、術後合併症の減少の効果が認められ、全国的に普及が図られています。



抗がん剤治療、 頭頸部放射線治療の際にも

抗がん剤治療や頭頸部の放射線治療で多い副作用である口内炎などにも周術期口腔機能管理が効果的であることがわかっています。

そしてなにより…

手術前後にしっかりとお口で食事をとることは、体力の維持・回復に効果があります。（手術の種類によっては手術の後しばらくお食事ができない場合があります）

元気に手術・治療を乗り切るためにも、しっかりと食事ができるようにしておきましょう。